

青少年の健全育成

沢田地区青少年健全育成推進協議会は、次代を担う青少年を健全に育成することを目的に組織され、青少年が心身ともに健やかに成長するため関係団体等と連携を図りながら活動を実施しています。

○ 役員紹介

役職名	氏名	摘要
会長	中島 一繁	石川町青少年健全育成推進協議会理事
副会長	深谷 悟	石川町青少年健全育成推進協議会委員
事務局	近藤 克之	石川町青少年健全育成推進協議会委員
監事	熊谷 英訓	石川町青少年育成指導員
監事	郷 暁	石川町青少年育成指導員
協議員	増子 邦彦	上沢井子ども育成会代表
協議員	根本 孝司	大池子ども育成会代表
協議員	遠藤 怜佐	竹柄子ども育成会代表
協議員	小豆畑洋樹	下沢井子ども育成会代表
協議員	生田目信宏	古内子ども育成会代表
協議員	北野 順児	中央子ども育成会代表
協議員	水野谷正史	赤羽子ども育成会代表
協議員	郷 英典	新屋敷子ども育成会代表
協議員	國井 大毅	鳥内子ども育成会代表
協議員	江尻 勝巳	沢田サッカースポーツ少年団保護者代表
協議員	佐川 克美	沢田ミニバスケットボールスポーツ少年団保護者代表

自治センターからお知らせ

- ・今年度の陶芸教室は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止します。
- ・白鳥の会8月（お口の健康）は、お休みします。

敬老祝金等の贈呈

敬老会は、多年にわたり社会に貢献してきた高齢者を敬愛し、長寿を祝うため毎年9月に式典等を行ってききましたが、今年は、新型コロナウイルス感染のリスクを踏まえ、一堂に会して式典・アトラクションは開催せず、祝賀状、敬老者名簿等を対象者全員に配布することになりました。沢田地区75歳以上の対象者は、354人（男135人、女219人）です。

75歳と88歳の方には、石川町から祝金。80歳の方には、沢田地区から記念品が贈られます。

敬老祝金等は、沢田地区敬老会実行委員が自宅を訪問し、お届けする予定です。

環境整備奉仕作業

・中央区は、地域整備事業の一環として、7月5日、自治センター前広場の草刈りや花壇の手入れなどを行いました。

・沢田婦人会(塩沢きよ子会長)は、7月11日、自治センターの会議室や調理室等の清掃を行いました。中央区の皆さん、婦人会の皆さんありがとうございました。



異常気象時の用水路管理体制

沢井集落資源保全会、下沢井水利組合では、用水路に於ける異常気象時の防災・減災に向けた管理体制がつけられ、6月14日に連絡体系などの確認が行われました。

近年、地球温暖化の影響によるゲリラ豪雨が各地で頻繁に発生。下沢井水利組合で管理している用水路についても、河川や水路が氾濫し、豪雨時の管理や兼業化の中で日に発生した場合の対応などが課題となっていました。

こうした中、非常時にも対応するため、総括責任者に水野光成さんを選任し、各管理施設の管理責任者を次の通り選任しました。

なお、管理責任者は、排水操作、取水口開閉、区域内排水操作などを行います。

管理施設名	管理責任者	副管理責任者
上沢井地区管理施設（真明田堰）	吉田 真樹	水野谷 悟
下沢井地区管理施設（処理場下）	深谷 周雄	近藤 隆志
下沢井地区管理施設（山森沢）	吉田 円治	小林 繁雄
下沢井地区管理施設（下沢井公民館上）	近藤 功	深谷 周雄
下沢井地区管理施設（館（旧籠屋））	深谷 周雄	中島 教忍
古内地区管理施設	根本 一夫	—
藤沢地区管理施設	前田 光男	—

※ 相互に作業状況の確認をする。

※ 連絡がとれない場合は、隣接の施設を確認する。

郷 隆さん少年補導荣誉銀章受賞

石川地区少年警察ボランティア協会 郷隆会長（新屋敷）は、平成13年度に、警察から少年補導員・指導委員として委嘱され、少年の非行防止・健全育成のため、街頭補導や相談など様々な活動を行っています。

その功労が認められ、6月25日に警察庁長官・全国少年警察ボランティア協会長から表彰されました。

栄えある受賞おめでとうございます。

鬼ご様（古内鍬柄会）《地域の伝統行事紹介》

今から200年ほど前、近郷近在に恐れられてきた流行病^{はまりやまひ}が発生。

「これは大変」と鍬柄会で相談し、古内地内にこの病が入らないようにとの願いを込めて稲わらで人形を作り、杉の葉を刺し、恐ろしい人面を描き仁王様を造り道端に祀った。

あるとき、飛脚が仁王様に小便をかけて去ったとのこと。飛脚は家に帰ると熱を出し、病はなかなか治らない。神様の祟りだと占い師から告げられ、家族が仁王様にお詫び供養するとみるみる回復したとのこと。

時代は変わり、耕地整理をすることになり仁王様を移すこととなった。ところが仁王様を移し祀った近くの家人が病気がちとなったため困り果て、若様（占い師）に占ってもらったところ、「移した場所が低くて汚い場所であるがため」と告げられた。そこで鍬柄会で相談した結果、現在の『長福院』に移し、祀ることとなった。

祀りごとは「ムケノツイタチ(旧6月1日)」とし、古内鍬柄会では1年間の無病息災を願い、また、草履を作り上げれば1年間足が丈夫で働けるとの言い伝えから、今でも皆が集まり立派に出来上がった草履を長福院の仁王様の腕に供えています。

現在は毎年7月の第1日曜日を祀りごとの日とし、今年も7月5日に行われました。

..先祖から受け継ぎ、更には子孫へ幸多かれと祈念する伝統行事で、大切な祀りごとです。..

